

3/6開催 日本損害保険協会との懇談会

岩手県代協では3/6に日本損害保険協会との懇談会を開催致しました。当日は、日本損害保険協会からは新納啓介会長（あいおいニッセイ同和損害保険社長）、原直人東北支部委員長、生駒新一東北支部事務局長、石戸保光岩手損保会会長が参加。岩手県代協からは舘洞会長、千葉副会長、丹内専務理事、出雲教育委員長の4名が参加致しました。まずは冒頭に、新納会長より、「ビッグモーター社による保険金不正請求問題」と「保険会社による保険料カルテル問題」についての謝罪と信頼回復に向けた取組についての報告がございました。（別紙資料添付 協会長ステートメント参照）

続いて、能登半島地震についての報告が行われました。地震発生後すぐに損保協会と被災地域の代協会員との意見交換が行われ、地震保険の迅速な支払いに向けて、市町村ごとの一括空撮査定を取り入れることが決まりました。「災害時には、復興に向けて地域の代協会員の力が必要不可欠であることを改めて実感した。今後も、防災や減災に向けた取組や、保険を通じた災害への備えの啓蒙などに積極的に取り組んで欲しい」との言葉をいただきました。また、学生への防災・減災の教育や、損害保険リテラシーの向上も重要課題として上げられ、「ぼうさい探検隊」については引き続き力を入れて取り組んで行く方針である事の報告がございました。次に岩手県代協から丹内専務理事より、昨年11月の共催セミナー開催の御礼を申し上げます。大幅な会員増強にも繋がったことから、次年度以降も毎年開催していただくよう要望致しました。

続いて舘洞会長より、東日本大震災の被災県として、防災・減災に向けた継続的な啓蒙活動について、岩手県代協と各保険会社が一体となって進めていく必要性を提言致しました。また出雲教育委員長より、学生への教育事業の一環である「出前授業」の報告を致しました。今年度は5校で開催いたしました。「損害保険リテラシーの向上」に向けて、次年度以降は更に多くの学校で開催できるよう取り組むことを共有致しました。

最後に千葉副会長より、代理店手数料ポイントについての提言を致しました。年々ポイントを下げられて苦しんでいる会員が増えている。また各保険会社ともに上がりにくいポイント体系であることを指摘。規模の大きな都心部を優遇することは地方を衰退させる一因となってしまう。保険会社個々の問題ではなく、損保会全体の課題として改善に着手していただくよう提言した。

